

新基地建設反対名護共同センターニュース

「オール沖縄」がデニー知事の激励集会

サンゴ移植許可指示は地方自治法違反



辺野古サンゴ訴訟の第1回弁論前の集会でガンバロー三唱する玉城デニー知事(前列左から3人目)ら=20日午後2時前、那覇市城岳公園

辺野古新基地建設に向けたサンゴ移植を巡る訴訟の第1回口頭弁論が20日、福岡高裁那覇支部で行われました。これに先立ち「オール沖縄会議」は裁判所前の城岳公園で約100人の県民が集まり玉城デニー知事を激励する集会を開催しました。

加藤裕弁護士は「防衛局が申し立てしていないのに農水省が沖縄県に許可するよう指示したことは、国と県は対等平等と定めた地方自治法に違反する」などと国の関与の違法性を指摘しました。

デニー知事は「知事の判断権限を奪うものだ。新基地建設を許さない」と決意を表明しました。

法廷で知事は、サンゴが「いったん死滅すれば元に戻すことはできない。到底納得できない」など意見陳述しました。国側は請求棄却を求めました。即日結審し、判決は来年2月3日となりました。

抗議船やカヌー一繰り出し「違法工事は中止せよ！」へり基地反対協が海上からアピール

へり基地反対協議会は21日、辺野古新基地建設現場のK8護岸付近の海上から抗議行動を展開しました。抗議船6隻、カヌー30艇、ゴムボート2隻から違法な工事強行に抗議し、中止を訴えました。

参加者は海上から「完成の見通しもない工事は税金の無駄遣いだ」などとスピーチをし、シュプレヒコールを響かせました。京都から歌手・川口真由美さんも駆けつけ、「海保の皆さんも聞いてください」とスピーカーでたかひの歌を数曲披露しました。

南風原町の中正勇さん(66=写真)は、「空からも抗議の声を届けたい」とシーサーの絵に「工事やめろ!」と書いた凧を作って参加しました。強風のため船上からは揚げることはできませんでしたが、抗議船からスタンディングで凧を示し連帯しました。



「辺野古障がい者のつどい2020」開催中止のお知らせ



写真↑は「第2回辺野古障がい者のつどい」(昨年3月2日)の様子。円内は渡嘉敷実行委員長。



「メッセージの宛先「新基地建設反対名護共同センター」にお願いします。住所、電話、FAX番号、アドレスは当ニュース最上欄をご参照ください。

また、毎回お寄せいただいている皆さんからのメッセージも11月末日をめどに受け付け、テント村の掲示板に掲示しますので、左記へ郵送、ファックス、メールでお送りいただければ幸いです。押し迫ってからの連絡で、何かとご迷惑をおかけしますが、ご協力よろしくお願いたします。

「障がい者の日」の午前11時から辺野古のキャンプシュワブ前テント村でアピール文を読み合わせしたいと思います。マスコミの取材とインターネットなどでの広報となります。

「障がい者」の「障がいの日」の午前11時から辺野古のキャンプシュワブ前テント村でアピール文を読み上げ発信する予定です。

12月5日に開催予定の表記つどいを、新型コロナ感染症拡大防止のため残念ながら中止することになりました。

辺野古障がい者のつどい
実行委員長 渡嘉敷 秀
とがしきすいしゅう

「障害は不自由であるが、不幸ではない。障がい者を不幸にしているのは社会である」ヘレン・ケラー